

衛星測位に関する取組方針 2025 (案)

(概要)

2025年 5月12日

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局

準天頂衛星システム戦略室



(参考) 衛星測位に関する取組方針2025に向けて ～ 取組方針2024のアップデート ～

<「取組方針」について（経緯、発展）>

- 準天頂衛星システム「みちびき」は、我が国が管理・運用している測位衛星。2018年から、日本上空に常に1機存在する4機体制で運用中（2025年2月、みちびき6号の打上げにより同年夏から5機体制）。
- 本システムの運用や開発については、**令和3年4月、当時の宇宙基本計画工程表に基づき「衛星測位に関する取組方針」（以下、「取組方針」）を策定**。将来の測位衛星の技術の高度化、体制拡張など今後の衛星測位システムの在り方を整理。
- その後、宇宙基本計画の改定（令和5年5月）で、11機体制に向けた検討・開発への着手の記載、また、宇宙技術戦略（令和7年3月）における衛星測位の記載もあり、また、2025年度までに5～7号機の3機が追加され、他国のGNSSに頼らず測位可能となる7機体制が実現する予定であることなど大きな動きがあったことから、**令和6年6月、取組方針を見直し、新たに「衛星測位に関する取組方針2024」を策定し、公表した**。
初回から3年を経ていたため、衛星測位に関する環境や周辺動向は大きく変化し、また利活用シーンも大幅に拡大したため、改めて4機体制の運用・実績を評価を行い、各サービスの見直しも実施。
- 今回、**諸外国の動向・環境の変化に加えて、11機体制に向けた進展（3号機後継機、8号機の開発予算の獲得）、みちびき6号機の打上げ、国内外での利活用・展開も進んでいる**ことから、前版の構成を活かしつつ、アップデートを行う。



(概観)「衛星測位に関する取組方針2024」からの変更点

- (昨年大改訂した)「衛星測位に関する取組方針2024」をベースに、構成(目次、章立て)を活かしつつ、2024年度における国内外の動向や環境の変化、7機体制・11機体制に向けた整備進捗(みちびき6号機打上げ含む)、利活用の拡大などを加えて、「取組方針2025」として示す。

章・目次

1. 背景

- (1) 衛星測位システムの概要
- (2) 準天頂衛星システムが提供するサービス(概要) ※より詳細は2(3)に
- (3) **国際協調・海外展開(概要)**
- (4) **準天頂衛星システムを取り囲む周辺動向(GNSS、PNT)**

2. 11機体制に向けた検討(サービスと性能、コスト)

- (1) 現状の課題
- (2) 今後の検討の進め方(方向性)
- (3) 各サービスの現状・方向性
 - ①通常測位サービス(GPS補完) ②高精度測位サービス(GPS補強)
 - ③**セキュリティ機能付き測位サービス** ④**災害緊急時メッセージサービス**
- (4) **11機体制への拡張**
- (5) 低コスト化への努力
- (6) **今後のシステム開発の方向性**

3. 利活用の推進と基盤の強化

- (1) 総論
- (2) 国内戦略
- (3) 海外戦略
- (4) **利活用推進の環境整備**
- (5) その他(今後について)

【参考】将来のシステムの方角性 ～宇宙技術戦略(衛星測位)から抜粋

- (1) 将来のシステムの方角性(将来像、環境認識、進め方)
- (2) 妨害干渉に強い高精度な衛星測位システム
- (3) 利用領域及びユーザの拡大に関する実証や技術の開発
- (4) 衛星測位システムの技術ロードマップ(表)

アップデート(記載)すべき事項の例

■ 国際状況の変化(米欧ロ中印その他)

- ー 各国システムの進展、方向性
(機数拡大、展開・スタンス(**レジリエンス**、**小型化**、**LEO**))
- ー 国際GNSS環境への貢献(IGS解析センターの日本初認定)

■ 7機体制の進捗、および11機体制へ

- ー **6号機の打上げ成功**、5号機・7号機は25年度内に打上げ
- ー 2025年度から**3号機後継機**、**8号機の開発に着手**
- ー 開発の将来展望(各号機展開イメージ)
- ー 測位精度の向上(一般的な受信機でも精度を1m級に)
- ー あるべき将来体制(**センター化も見据えた組織体制の強化**)

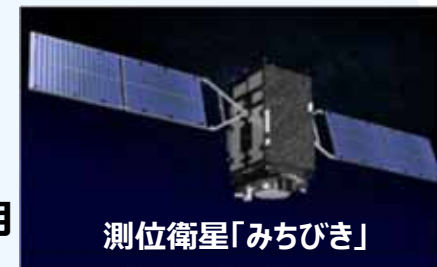
■ 国内外の利活用の拡大、課題(各サービスの状況)

- ー センチメートル級(CLAS)、サブメートル級(SLAS)の**精度**、**信頼性**
※ユーザー報告、太陽活動(フレア、コロナ)活性化
- ー 国土地理院「高精度測位社会の電子基準点施策あり方検討」
- ー 測位航法補強システム(SBAS): 航空分野以外への広がり
- ー **信号認証**、**災危管理通報サービス(EWSS)**の実証拡大
- ー 内外イベント対応、広報発信力の強化(官邸、メディア活用)

■ 宇宙技術戦略 → R7.3に改訂(**レジリエンス**、**LEO**)

「衛星測位に関する取組方針2025」（案）の概要

- 令和3年4月、宇宙基本計画工程表（当時）に基づき、「衛星測位に関する取組方針」を策定。
将来の技術の高度化、体制拡張など今後の衛星測位システムの在り方を整理。
- その後、令和5年6月の宇宙基本計画改定で11機体制への検討・開発への着手が明記されたこと、
令和6年3月の宇宙技術戦略の策定を踏まえ、「衛星測位に関する取組方針2024」として、見直し。
- 昨年度の、みちびき6号機打上げ成功、3号機後継機及び8号機の開発着手などの動き、これまでの運用
状況や利活用拡大の進展を踏まえ、改めて、サービスの在り方・推進体制について、最新の内容に見直す。



① 衛星測位システムの国内外動向

衛星測位システムの機能（位置、航法、時刻）



①位置

・人や物、建物の地図／デジタルマップの位置を把握

②航法

・目的地へのルートを探索後、道に沿った案内を行う

③時刻

・正確な時刻を入手可能
（金融機関の取引決済、
携帯基地局の時刻同期）

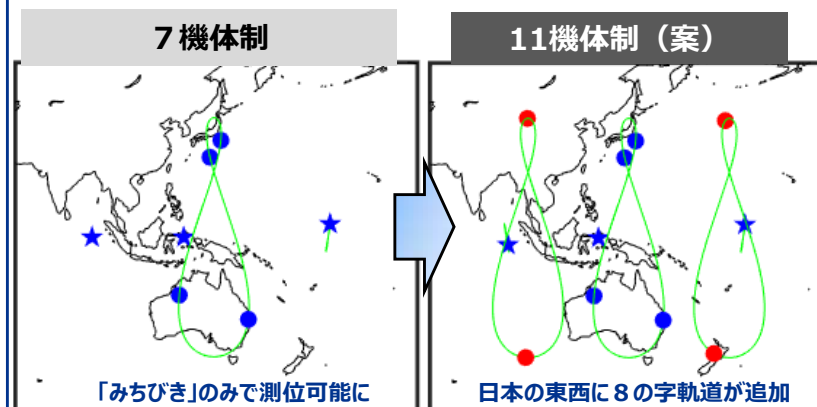
→ますますスマート社会・産業に不可欠なインフラに
進展する各国の衛星測位システム

衛星測位システム	測位精度	運用状況
GPS Global Positioning System	5~10 [m]	31機体制で運用中 ※R-GPSの開発計画あり
GLONASS 	10~25 [m] (補強情報を使って 20cm程度を目指している)	24機体制で運用中 ※LEO-PNT、Small sizedの衛星計画あり
Galileo 	15~20 [m] (補強情報を使って 20cm程度を目指している)	27機体制で運用中 ※最大30機体制の運用計画あり
北斗 (BeiDou) 	10~15 [m] (補強情報を使って 20cm程度を目指している)	45機体制で運用中
NavIC Navigation Indian Constellation	~20 [m]	7機体制で運用中 ※11機への拡張計画あり
準天頂衛星システム QZSS Quasi-Zenith Satellite System	5~10 [m] 数cm (最高6cm) (L5周波数による高精度)	4機体制で運用中 ※2025年度までに7機体制を構築予定 ※将来の11機体制に向け、開発着手

ジャミング、スプーフィングへの対策が各国で検討進む
※米ではR-GPS、世界的にLEO-PNT検討など

② 11機体制に向けて（機数拡張、サービスの在り方）

7機から11機へ（バックアップ強化、地域拡大）



→1機喪失しても、機能・性能を維持 & 利用エリアの拡大

みちびきの各サービスの在り方

①通常測位：他GNSSとの互換性を追求

- ・マルチ衛星測位（互換性、高仰角）
- ・公共専用信号（信号2周波化）

②高精度測位補強サービスの展開・普及

- ・CLAS（cm級）
- ・SLAS（m級）
- ・SBAS（航空管制用）
- ・MADOC-PPP（海外dm級）
- ・信号認証サービス（電子署名付き）

→7機体制下で、
各サービスの質、
信頼性の向上

③メッセージサービス：災害危機時への活用など

- ・災害危機管理通報サービス（EWSS）など

③ 利活用を促す環境整備（国内外戦略、人材育成）

国内戦略



・政府のデジタル・スマート計画との
連携強化、活用（都市、地域、物流）

海外戦略



- ・二国間（相手に応じた戦略を立案）
- ・多国間（枠組を活用して環境・制度整備）

環境整備・人材育成

高専学生への講義・アイデアソン



- ・人材育成（開発／利用）
- ・産学官コミュニティ形成
- ・宇宙スタートアップ

(参考) 策定プロセスとローリング

●策定のプロセス（2025年）

3月～4月 「衛星測位に関する取組方針」の見直し（事務局内での検討・精査）

4月中旬 「衛星測位に関する取組方針2025」（案）の提示

→ 関係する省庁・機関、関係する有識者へ照会、修正（4月中）

5/12 「衛星測位に関するワーキンググループ」で議論

※取りまとめ後、「衛星小委員会」にも共有

5月下旬頃 「宇宙政策委員会」に報告（その後、公表）

→ 新しい取組方針の下、新しい取組を展開

●今後のローリング（見直し）

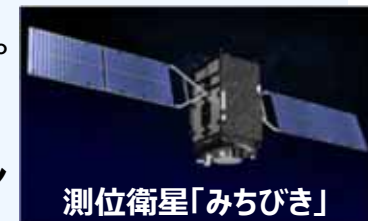
- ・準天頂衛星システムの運用・開発の方向性・取組について確認するため、国内の英知を結集し、衛星測位に関する国内外の動き（政策・システム、技術、利活用等）等について、**必要に応じて**（変化の程度、多寡により判断）、ローリングを行う。

※事務局内で並行する「宇宙基本計画工程表」「宇宙技術戦略」の見直しとも連携

- ・ローリングにおいては、重点的なテーマを置き、検討する。その際、官民プラットフォームや関係する企業、業界、学術団体等から意見を聴取する。

準天頂衛星システム「みちびき」 概要

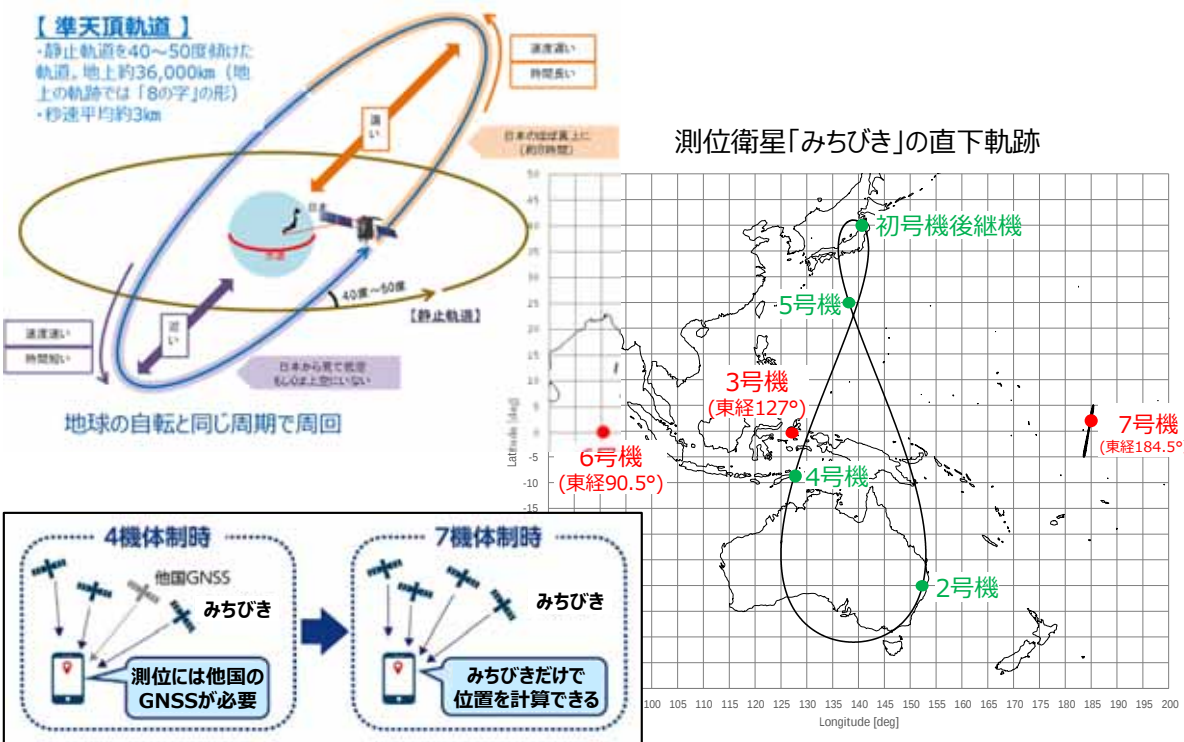
- 準天頂衛星システム「みちびき」は、**我が国が管理・運用する衛星測位システム**。米GPSと互換性を持つ。
- **2018年**から、日本上空に常に1機存在する**4機体制**（2021年10月に初号機後継機を追加）。
- これに加え、位置をより正確に求めるための**補正情報（補強信号）**を送信し、測位誤差が**センチメートル級の高精度測位サービス**を実現（GPSの誤差は約5-10m）。
- 「みちびき」のみでの測位サービスが可能となる**7機体制の構築**に向け、**2025年2月2日に6号機を打ち上げ（成功）**、さらに2025年度にかけて、残る5、7号機を順次、打ち上げていく予定。
- 測位・時刻サービス（PNT）はデジタル・スマート社会に不可欠。その安定供給を目的とした**バックアップ機能の強化**や利用可能エリアの拡大のため、将来、**11機体制に向けて検討・開発に着手**することが、改定された「宇宙基本計画」（令和5年6月閣議決定）において明記。→ **令和6年度末から、3号機後継機、8号機の開発に着手**。



準天頂衛星システム（7機体制）の軌道等

【準天頂軌道】

- ・静止軌道を40～50度傾けた軌道。地上約36,000km（地上の軌跡では「8」の字の形）
- ・秒速平均約3km



準天頂衛星システムの整備計画

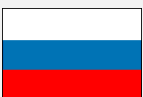
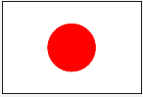
※宇宙基本計画 工程表（令和6年12月）より抜粋

令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 以降
準天頂衛星システム4機体制の運用 (GPSと連携した測位サービス) [内閣府]			準天頂衛星システム7機体制の運用 [内閣府]							
			測位能力の維持・向上に必要な後継機の検討・開発整備 [内閣府]							
			7機体制に向けた追加3機の開発整備 (機能・性能向上に向けた研究開発) [内閣府]							
			米国センサの搭載を通じた宇宙状況把握能力の向上のための日米協力の推進 [内閣府、外務省]							
			準天頂衛星システム11機体制に向けた開発 [内閣府]							
			将来の準天頂衛星システムへの供給を目指す日本標準時(UTC(NICT))の信頼性向上 [総務省、内閣府]							

※：「▲」は各人工衛星の打ち上げ年度の現時点におけるめど等であり、各種要因の影響を受ける可能性がある。

各国の衛星測位システム（GNSS）の状況

- **米国（GPS）**及び**欧州（Galileo）**、**ロシア（GLONASS）**は、グローバルな衛星測位システム（GNSS）を整備、その利活用を進めてきた。
- **中国（北斗 ; BeiDou）**も、米国・ロシア・欧州に続き、グローバルな衛星測位システムを2020年に構築。
- **韓国**でも、朝鮮半島を中心に半径1000 kmを対象としたリージョナルな衛星測位システムKPSを構築予定。
- **GNSSを持たない国（英国、トルコ、NZほか）**も、PNTサービス（位置、航法、時刻）の保持・代替に強い関心あり

衛星測位システム		測位精度	運用状況
米国 	GPS Global Positioning System	5～10 [m]	31機体制で運用中 ※R-GPSの開発計画あり
ロシア 	GLONASS	10～25 [m] (補強情報を使って 数cm程度を目指している)	24機体制で運用中 ※LEO PNT、Small sizedの開発計画あり
欧州 	Galileo	15～20 [m] (補強情報を使って 20cm程度を目指している)	27機体制で運用中 ※最大30機体制も視野に
中国 	ベイドウ 北斗（BeiDou）	10～15 [m] (補強情報を使って 20cm程度を目指している)	45機体制で運用中
インド 	ナビック NavIC Navigation Indian Constellation	～20 [m]	7機体制で運用中 ※11機への拡張計画あり
日本 	準天頂衛星システム QZSS Quasi-Zenith Satellite System	5～10 [m] 数cm（最高6cm） (cm級の補強情報活用時)	4機体制で運用中 ※2025年度までに7機体制を構築予定 ※将来の11機体制に向け、開発着手

2025年3月現在

GNSS
(グローバル)

RNSS
(リージョナル)

GNSS、PNT
に関心あり



トルコ



英国



韓国

計画中

11機体制への拡張に向けて

- ・準天頂衛星システム「みちびき」は、**位置・時刻情報を提供する我が国の社会インフラ**。
- ・現在 4 機で運行中、**2025年度までに7 機体制**を構築（みちびきのみで測位を実現）。
- ・**将来、11機へ拡張**し、社会インフラの信頼性を確保し、経済成長を支える基盤となる。 ※宇宙基本計画改定（令和5年6月）

7 機体制



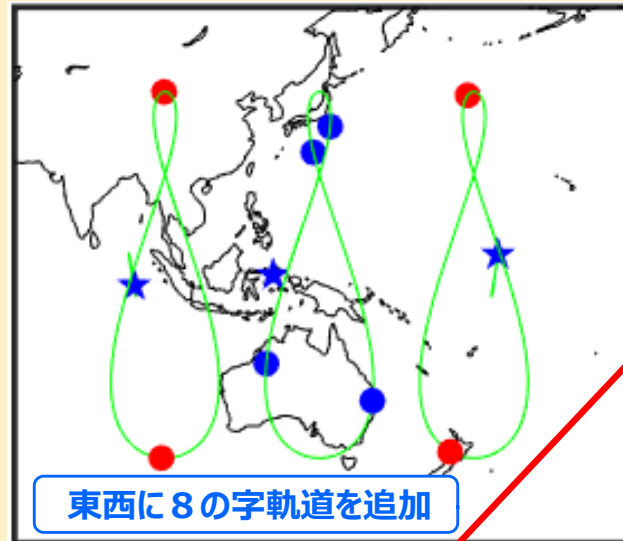
みちびきのみで測位が可能に。
必要最低限の機数であり、**1 機でも故障すると維持できない**

欧州（Galileo）



2017年に欧州の衛星測位システム（ガリレオ）が故障。1週間程度、サービス停止。

11機体制（案）



どの1機が故障しても、測位機能を維持できる（バックアップ）
・7機よりも提供**エリアが拡大**

米や印の衛星はバックアップあり
インド（NavIC）



バックアップのため、7機⇒11機への拡張を計画中

経団連や自動車メーカー、
インフラ関連企業等の
産業界から強い要望がある
（東南アジアでも利活用可）

得られる効果(信頼性と先進性)

故障時も**他国GNSSに頼らない社会インフラ**を実現（安保上も重要）



5G携帯電話
（基地局の同期）



除雪作業の自動化
（道路の交通の維持）

自動・無人化により、労働力不足・高齢化等の社会課題の解決、イノベーションの推進



自動化物流ネットワーク
（自動走行）



建設の自動化

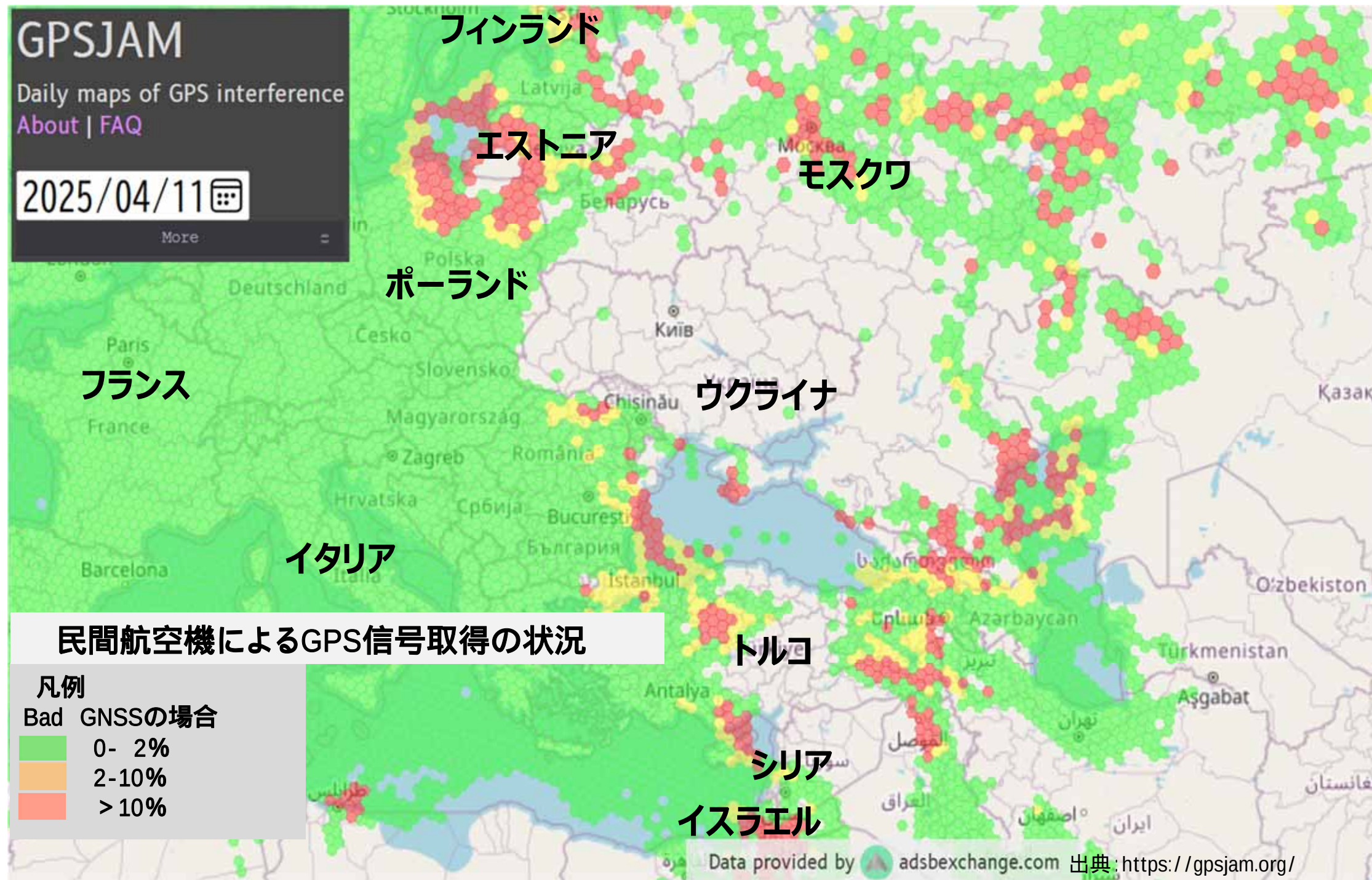
GPSJAM

Daily maps of GPS interference

[About](#) | [FAQ](#)

2025/04/11

More





宇宙技術戦略「Ⅱ．衛星測位システム」における改訂のポイント

<改訂のポイント>

- 環境認識については、主に、**衛星測位システムの抗たん性や性能の向上を目指す動きを追記**。
- 技術開発については、上記の対応例として**低軌道衛星測位コンステレーション（LEO-PNT）の研究開発及び実証に取り組む必要性**を追記した。

環境認識に係る主な変更

① 妨害・干渉に強い高精度な衛星測位システム

- ✓ 米GPSにおいて、抗たん性の観点から、R-GPS※という安全保障用途目的の信号を送信し、最低限の構成に絞った小型で低コストな衛星群をGPSに追加する検討を開始。
- ✓ 低軌道測位コンステレーションを構築するために必要な周波数確保に向け、5GHz帯（5030-5250MHz）に対する無線航行衛星業務の分配について、ITUにおける検討が始まっている。

技術開発に係る主な変更

① 妨害・干渉に強い高精度な衛星測位システム

- ✓ **低軌道衛星測位コンステレーション（LEO-PNT）や5GHz帯測位信号の技術獲得に向けた要素技術の研究開発及び実証に取り組む必要性**を追記。



※R-GPS：Resilient GPSの略。L1C/A,P(Y),Mコードの信号を送信する計画。

準天頂衛星システムの機能（サービスの概要）

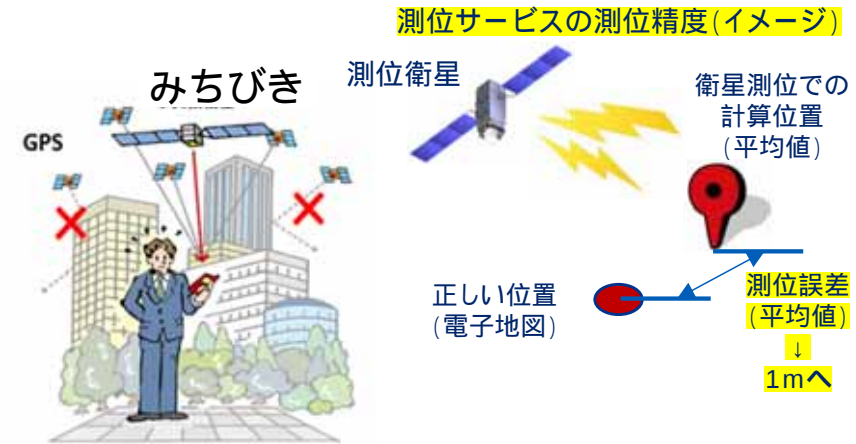
「みちびき」基本のサービス

・衛星測位サービス（GNSS/PNT+ASNAV）

- 7機体制構築により「みちびき」のみで測位を可能に
- 高精度測位システム（ASNAV※）による測位精度向上

※JAXA開発の新規技術。5～7号機に搭載し技術実証を行い、実用化を目指す。

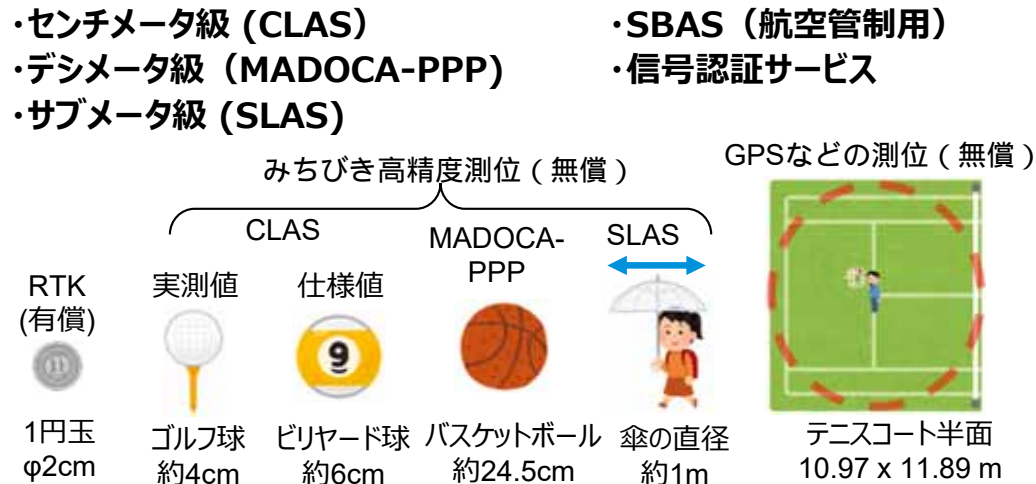
近年では、ほとんどの受信機（スマホ、カーナビ等）がみちびきの信号に対応。
→ASNAV導入により測位精度を向上（数m → 1m）



GPSにはない「みちびき」特有のサービス

・測位補強サービス（GNSSの補強）

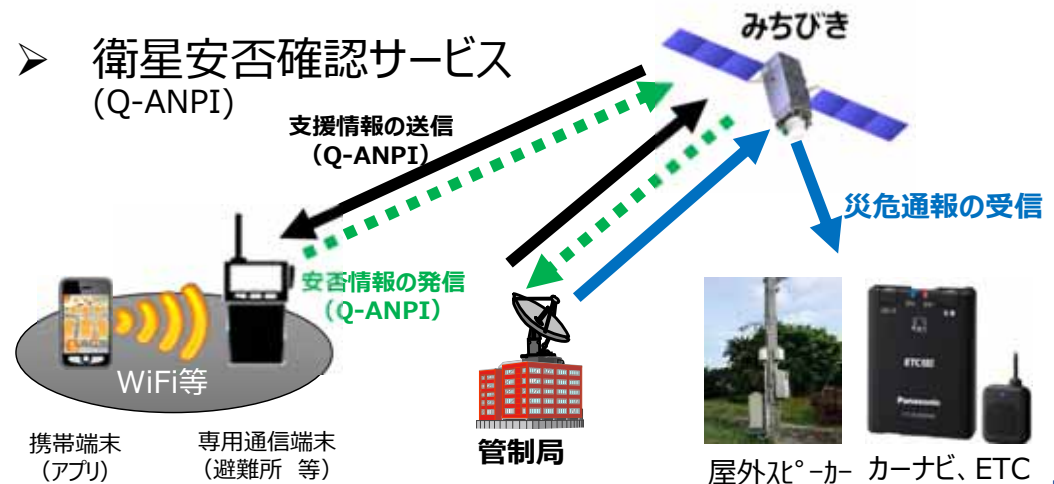
- 補強情報による測位精度の向上
（専用受信機が必要）



・メッセージサービス（地上－衛星間の通信）

- 災害危機管理通報サービス
※専用受信機等が必要（ゴルフウォッチ、カーナビなど展開中）

- 衛星安否確認サービス（Q-ANPI）



みちびきの高精度測位サービスの利用拡大 (新しいサービスの実現、産業振興に不可欠なインフラ)

- 2025年3月末時点で、みちびきに対応する**製品数は447**
(受信機、スマートフォン、カーナビ、スマートウォッチなど**50種類**)

自動車分野

日産自動車株式会社
運転支援技術（プロパイロット2.0）を搭載した100%電気自動車「アリア」を発売。
セレナ上位の「e-POWER LUXION」にも搭載。**車両の位置情報取得**にみちびきのセンチメートル級測位補強サービス（CLAS）を活用。



https://www3.nissan.co.jp/vehicles/new/ariya-details/performance_safety/ads.html?rstdid=ariya_2403_top_usp_03



<https://www3.nissan.co.jp/vehicles/new/serena/extension.html#luxion>

ドローン分野

株式会社ACSL
サブメータ級測位補強サービス（SLAS）に対応した国産の小型空撮ドローン「蒼天」の販売を開始。全国の官公庁に約600台以上を出荷し、防衛装備庁にも導入が決定



©ACSL

株式会社コア
「信号認証サービス」に対応した受信機を開発し、CLAS対応ドローンに搭載。スプーフィング状況下でも安全な飛行を実現。



©CORE CORPORATION

農業分野

株式会社エゾウイン
みちびきの**センチメートル級測位補強（CLAS）**を活用した**集団で農作業を行う組織向けのシステムを開発**。「ごみ収集」「除雪」「町内バス」など他業種でも活用が進む。



©エゾウイン株式会社



インフラ分野

株式会社松本コンサルタント
CLASを活用した地籍測量の実現に向けて一筆地測量作業マニュアル案を作成し、地籍調査（甲三・乙一）で要求される精度を確認。



株式会社松本コンサルタント

北海道開発局
北海道における地域課題解決として、CLASを活用した河川敷の除草（Smart-Grass）や除排雪作業（i-Snow）の自動化の取り組みを推進。今後、対象地域を拡大予定



国土交通省
北海道開発局

MADOCA対応受信機

みちびきが受信可能な地域であればどこでも利用可能な**高精度測位補強サービス（MADOCA-PPP）対応受信機**が各社より販売中。アジア・オセアニア地域での事業化に向けて活用が進む。



©ビズステーション株式会社

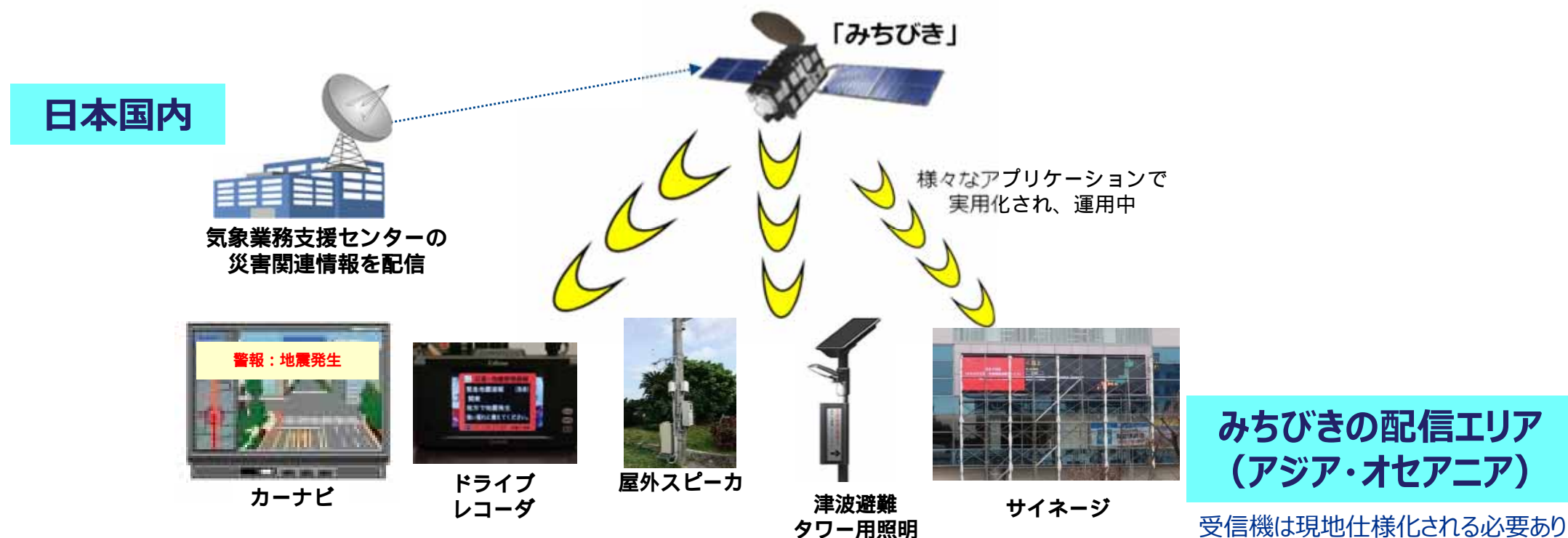
©CORE CORPORATION

Magellan Systems Japan, Inc.

（参考）災害・危機管理通報サービス（EWSS）の海外展開

- 災害・危機管理通報サービス（EWSS）は、防災機関（気象庁等）から発表された地震や津波発生時の災害情報などの危機管理情報を、みちびき経由で配信するサービス。国内のみならず、みちびきの信号が届く海外エリア（アジア・オセアニア）にも配信することが可能。
- 南太平洋 フィジーにおいて、**地震や津波などの災害関連情報**、また**現地の防災機関が作成した災害避難情報**を「みちびき」経由で現地国へ配信する実証を2件実施。
 - 本実証を円滑に行うため、日本とフィジー間において、災危通報サービスの社会実装に向けた**協力覚書の署名**が行われたほか、外務省が示す**オファー型協力のメニュー**の1つとして登録。

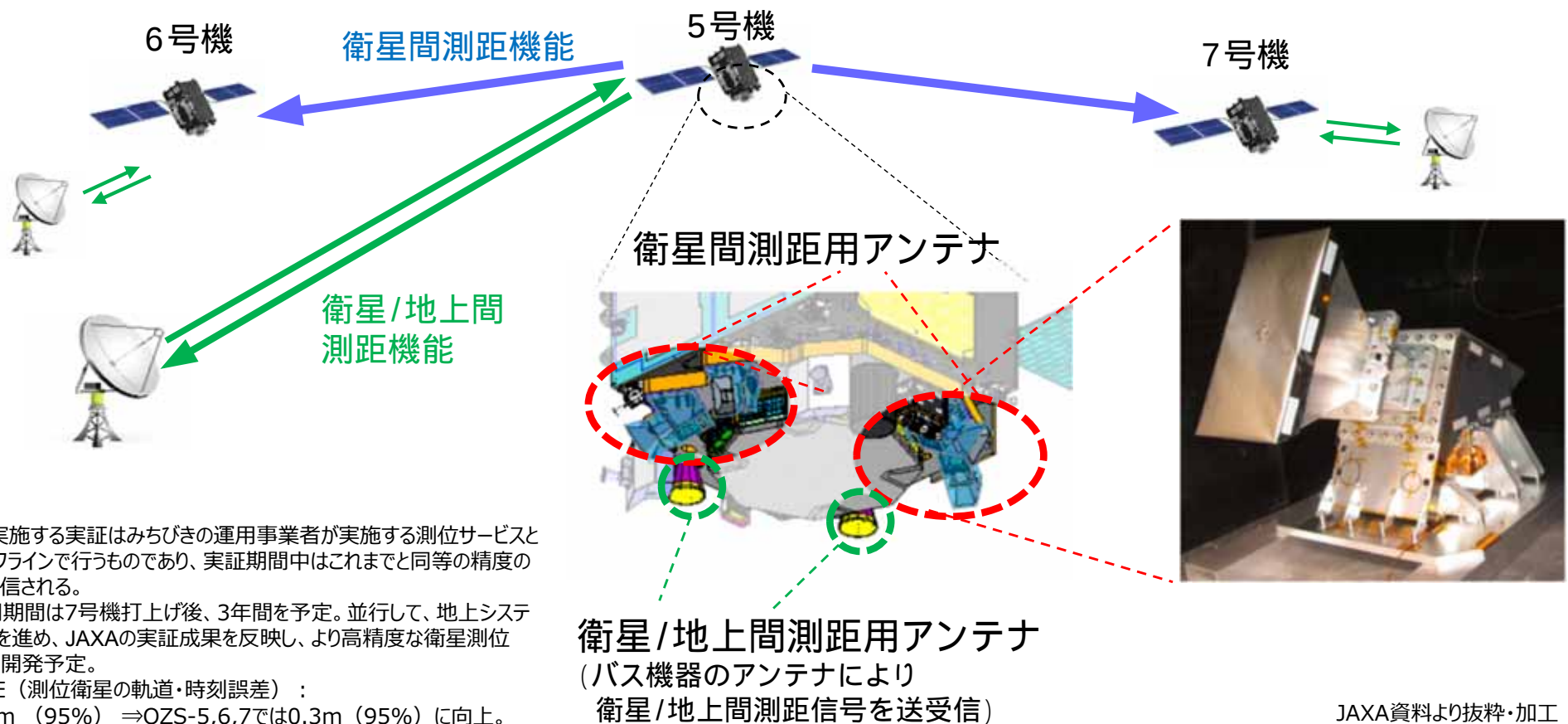
＜災害・危機管理通報サービス（災危通報）のサービス概要＞



将来の高精度化に向けた取組 ～高精度測位システム（ASNAV）～

- ◆ 高精度測位システム（ASNAV: Advanced Satellite NAVigation system）は、従来の準天頂衛星システムに、**衛星間測距機能**および**衛星/地上間測距機能**を加え、より正確に衛星の位置と時刻を特定することにより、ユーザがより正確に測位できる仕組みを実現。
- ◆ 将来、「みちびき」衛星の全てに衛星間測距機能および衛星/地上間測距機能が搭載されれば、**スマートフォンのような一般的な受信機でのユーザ測位精度は飛躍的に向上**する。
（内閣府からJAXAへ委託し、高精度測位システムの開発・実証中。（※1,2））

現状: 5～10m ➡ 将来: 1m (※3)

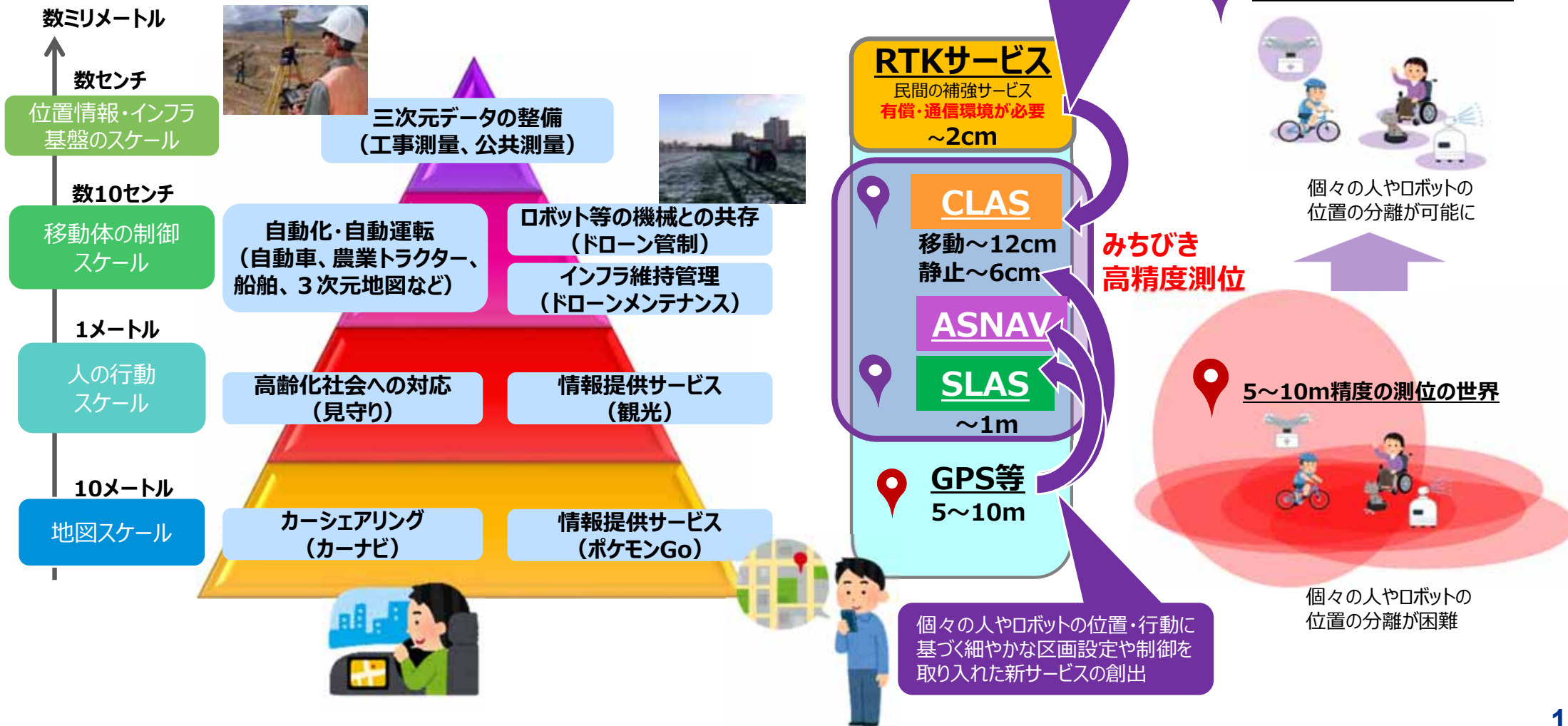


- ※1 JAXAが実施する実証はみちびきの運用事業者が実施する測位サービスと並行しオフラインで行うものであり、実証期間中はこれまでと同等の精度の信号が送信される。
- ※2 実証運用期間は7号機打上げ後、3年を予定。並行して、地上システムの対応を進め、JAXAの実証成果を反映し、より高精度な衛星測位サービスを開発予定。
- ※3 SIS-URE（測位衛星の軌道・時刻誤差）：
現状2.6m（95%）⇒QZS-5,6,7では0.3m（95%）に向上。

測位精度とサービス

- 人、データ、プロセス、モノの情報を利用する際、「位置と時間」は重要な要素であり、「位置情報」が高精度になることにより、様々なシーンでの活用が見込まれる。
- 準天頂衛星システムの活用により、高精度な位置情報が容易に取得が可能になる。

【測位精度】×【位置情報サービス】



7 機体制の構築／その先に向けたアウトリーチ活動（広報の強化）

- 各分野での「みちびき」の利用を推進する国交省・農水省などの関係省庁の他、関連業界や技術者、一般の方向けに、展示会・講演会、専門誌とのコラボのほか、「みちびき」ウェブサイトの活用など、様々な媒体を通じて、各関係者へ向けての広報を実施。

関連業界・一般への周知：

建設メンテナンス・ドローン展示会・講演会等



政府ドローンサミット
(R6.10、北海道札幌市)

建設・製造業レジリエンス展
(R6.7、東京お台場)



新規宇宙事業拡大：

スタートアップ企業向け講演会・アカデミー



民間の宇宙ビジネス拠点をベースに、多様な産業・人材からのコミュニティを形成



引用：<https://www.crossu.org/>

測位技術者の拡大：

高専・技術者向け専門誌とのコラボ

2024年7月号から11月号にかけて
5号連続で「みちびき」の企画



「みちびき」ウェブサイトの活用



引用：<https://qzss.go.jp/>

準天頂衛星システム「みちびき6号機」打上げ結果（概要）

1. 打上げ日時（実績）

- 日時： **令和7年2月2日（日）17:30:00**
- 射場： JAXA種子島宇宙センター（鹿児島県）

2. H3ロケットの概要

- 構成： 2段式＋固体補助ブースタ2本（H3-22S）
- 重量： 約422トン、全長：約57m、直径：約5.2m
- 搭載衛星： **準天頂衛星システム「みちびき6号機」**
- 投入軌道： 静止トランスファー軌道（GTO）

3. スケジュール

- ～約0.5ヶ月 静止衛星軌道到達
- ～約2ヶ月 衛星搭載機器機能確認完了
- ～約2ヶ月 QZSS End to End確認
- ～約4ヶ月 測位チューニング

約6ヶ月後～ 測位サービス開始（※）

※ 運用中4機（1 R、2～4）と合わせて、5機体制でサービス提供

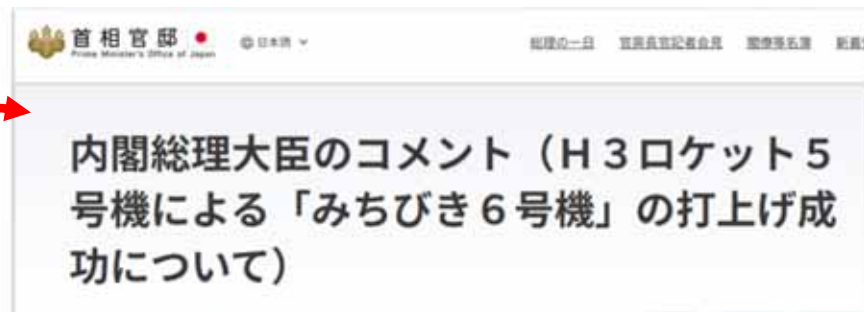
2025年度に、5号機及び7号機を打上げ、26年度から7機体制で運用予定
（他国のシステムに頼らず、みちびきのみで測位サービスを可能とする）



(参考) みちびき6号機打上げ時のPR ～ プッシュ型の広報

総理メッセージの発信 (X、官邸ウェブ)

官邸ウェブサイト



X(旧ツイッター)



→ ニュース性の拡大
意義・重要性の周知

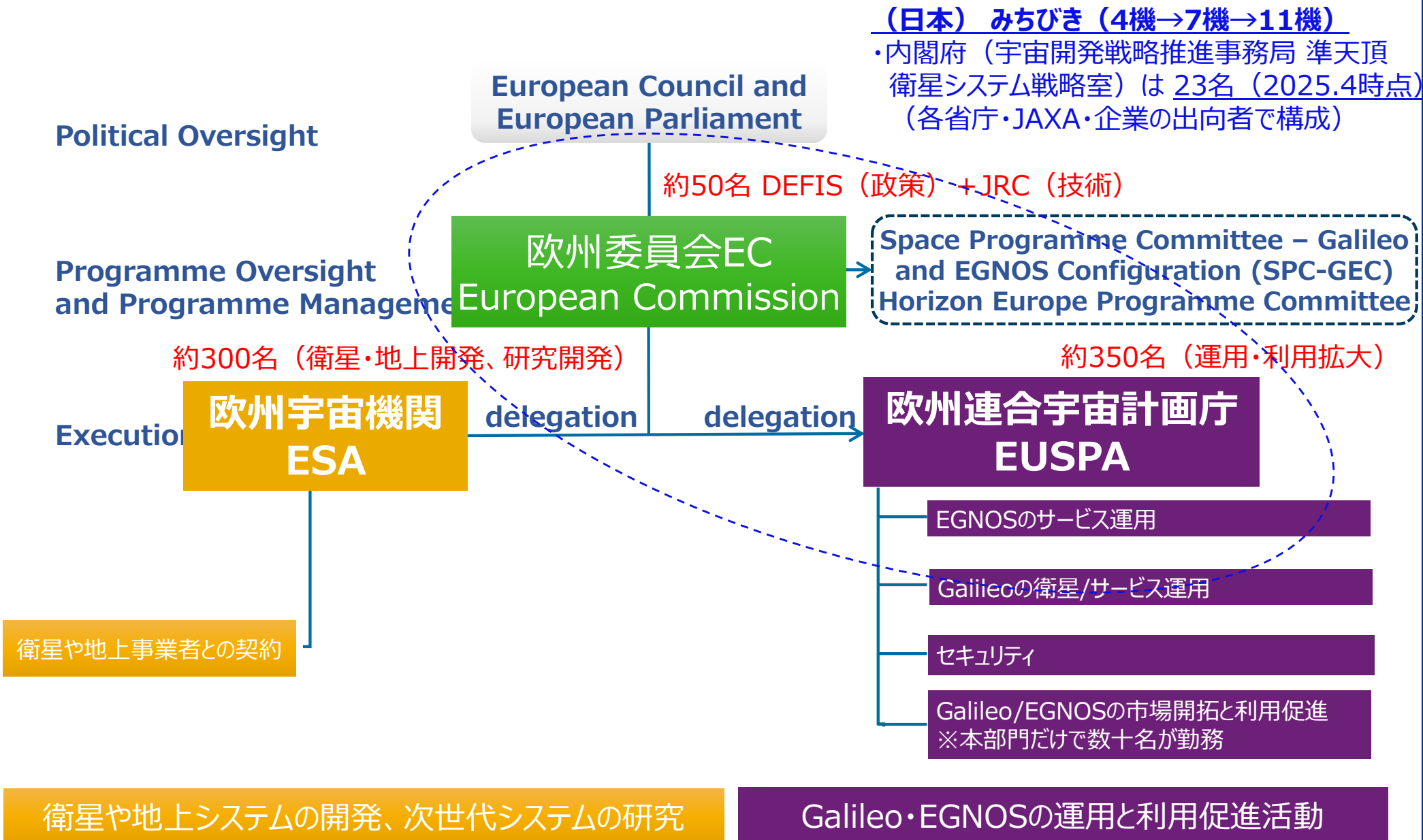
多方面への宣伝 (Vtuberの活用)



→ 打上げへの関心拡大

主要国の衛星測位システムの開発・運用体制 ①欧州Galileo

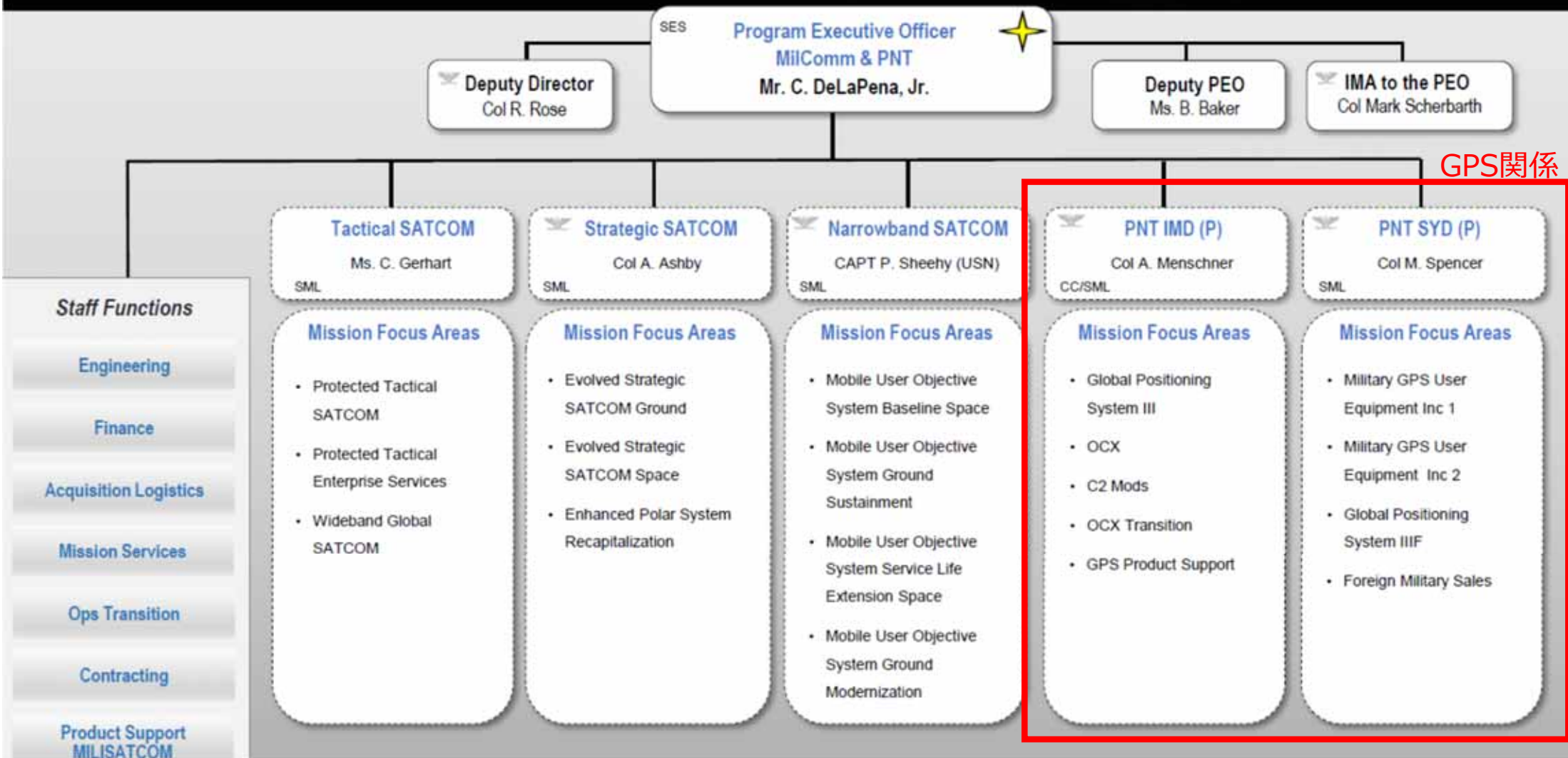
【参考】欧州Galileo(28機) の政策立案・開発・運用体制（総勢 700名近い関係者）



主要国の衛星測位システムの開発・運用体制 ②米国GPS

米国GPSの開発・運用体制

➤➤➤ MilComm & PNT (MCPNT) (SSC/CG)



「External SSC Org Chart_Aug2024.pdf」から抜粋

PNT Integrated Mission Delta

PNT System Delta

政府内の衛星測位サービスに係る政策・事業推進体制

< 政府／宇宙開発戦略推進事務局 >

宇宙政策委員会

※後藤委員長（西武HD会長）

衛星小委員会

※中須賀委員長（東京大教授）

衛星測位に関する ワーキンググループ（WG）

※中須賀座長（東京大教授）

目 的

政策決定、ビジョン策定、国際展開
※年3回程度

活動の項目

- (1) 国内外の動向把握（他国システム、関連技術、周辺環境等）
- (2) システムの在り方（性能、コスト、開発）
- (3) 技術・研究開発（スケジュール、体制）
- (4) 事業推進委員会との連絡

運用
確認

実績
報告

事業推進委員会

※坂下委員長（JIPDEC常務）

- PFI事業の評価、具体的な改善提案
※年5回程度

- (1) 事業評価（KPI）
- (2) トラブル・運用改善
- (3) 利活用状況の把握
- (4) 衛星測位WGと連携

報告

指示

（個別の
検討体制）

- ・災害危機対応サービス検討会
- ・公共専用信号研究会

< 準天頂衛星システム戦略室内 >